

No	研修の満足度	選んだ理由
1	5	それぞれの発表で自分のこれまでを振り返り、これからの教育の在り方について考えられたから
2	4	どの発表もそれぞれブラッシュアップされ、洗練された分かりやすいものとなっていたため。
3	5	自分が何に困っていて、どんな感情を抱いていたのかを知る貴重な機会となりました。ありがとうございました。
4	5	どの発表も、発表者のこだわり(大切にしたい)思いが詰まった発表であったと思いました。「教科」(研修部と科学情報部)に関する研究は自身の教材づくりや授業づくりに参考になった点。「定期相談」(教育相談部)に関する研究は日頃の生徒らとの関りを振り返るとともにこれからの関わりに参考になった点。いずれの発表も未来志向型でどれもが現場ですぐにでも実践したくなるようなテーマでした。
5	5	授業の構想であったり、教育相談の運営であったり、現場の悩みに対して、センターができることとして時間をかけて研修していただいているということが感じられる発表であった。現場に戻ったときに、役立てられるようにしていきたい。
6	4	毎回の発表後の振り返りはとても勉強になりました。ただ、オンラインでのブレイクアウトルームで話すのはかなりハードルが高いように感じました。
7	5	どの発表も確たる調査に裏付けられた研究発表であったから。
8	4	お話を聞くだけでなく、感想を共有する時間もあり、自分の立場で振り返るきっかけになりました。具体的な部分について、もう少し知りたいと思いました。
9	5	新たな視点に気付くことができた内容だったので。
10	5	1年間微力ながらも調査研究に参加させていただき、発表会も自分事として参加することができたから。今後の実践に活かそうだったから。
11	4	どの発表も取組の成果を感じられる内容だった。振り返りに課題がみられたので-1です。
12	5	それぞれの方が時間をかけて進めてこられた研究の一端を、分かりやすく、短い時間にまとめて紹介していただける機会は本当に有意義なものだと思います。発表者の情熱が伝わってくる研究発表ばかりでした。
13	5	本研究と一緒に参加させていただいたことを思い出し、これから現場に戻った時にどのように生かしていけば良いのか、省察することができたから。
14	5	3つの部の2年間で得られた知見を知ることができたから。
15	5	2年目の集大成で研究の趣旨と結果と今後まで理解できた。
16	5	1年間携わったり、報告を聞き続けてきた研究が成果として成るところを実感できたから。
17	4	ハイブリット形式ですので、難しいかもしれませんが質疑応答の時間があってもよかったです。それにより様々な気づきがあるからです。
18	5	個々の研究発表後にブレイクアウトルームが設定されていて、感想や疑問等を共有することができました。
19	5	どの調査研究も、大変勉強になりました。
20	5	どの発表も、現在の喫緊の教育課題であり、切実感をもって聞くことができたため。
21	5	運営、発表内容ともに充実した内容だったと思います。
22	5	すぐに実践できる内容ばかりだったから。また、汎用性の高い研究内容だったので、誰でも活用できるものだったから。
23	5	どの発表もよく練られており、充実した内容だったから
24	5	発表内容はもちろんですが、大きなトラブルもなく、ほぼ時間どおりに進行された点がよかったです。
25	5	学校現場で役に立つ実践的な研究発表のため
26	4	各部が力を込めて積み重ねてきた成果に触れることができた。
27	5	調査をもとに根拠を示して研究されていることがすばらしいと感じた。
28	5	非常に分かりやすかったです。開催時刻も発表時間も適切でした。
29	5	3つの発表とも、2年間の研究の成果が大変わかりやすくまとめられており、今後に生かせるものだったため。
30	4	小学校でも活用できることがありました。

31	5	それぞれの発表の後に各自振り返りの時間が設定されており、その後に共有するという流れのおかげで、落ち着いて考えをまとめることができました。
32	4	これから、授業づくりをする上で、必要な内容だったから。
33	4	発表の後にセンター外の参加者の方からの質問や意見を聞いたかったので。
34	5	研究1と研究2のみ参加させていただきましたが、今後の授業の改善に役立てられる内容でした。特に理科の仮説の設定や検証実験の計画などで参考になりました。また、汎用性の高いデザインシートや発問手順シートなどはいろいろな単元での活用ができそうです。
35	4	研究発表については、多くの示唆を頂き、今後の自身の業務に生かしていきたいと思える内容で満足です。その場で少しでも質問ができるとうり難かったです。
36	5	時間厳守でテンポもよかった。
37	5	研究内容が緻密で、発表がとても分かりやすかったため。
38	5	全ての発表において、細かいデータの裏付けがあったうえでの資料であり、説明であった。たいへん分かりやすく、「なるほど」と思うところが多々あった。
39	5	それぞれの部からの内容の濃い報告を聞くことができ、大変勉強になりました。
40	5	授業づくりに関する手立てや工夫、シートの活用等、研究を重ねられたレベルの高い実践を拝聴させて頂くことができました。ただ、自分自身の力不足でまだまだそのレベルに達しておらず、自分の学校や学級ではどの部分をどのように活用できるのか改めて実態に応じて考える必要があると感じました。
41	5	問題の所在から研究過程、結果、普及の方法まで非常に分かりやすく、コンパクトにまとめられていた。
42	4	これまでの研究の成果を詳しく聞くことができた。中間発表やリハで聞いたことからさらに分かりやすく深い内容となっていた。
43	4	教育現場で明日からでも活用出来る内容や成果物があつた。更に相談部では活用ナビまで追加で作成されており心憎いほど考えられていた。

No	研究1 教育研修部 (発表:坂田 元丈)
1	いくつかの実践を聞き、この様な質の高い学習に子供達がついてこれるのかと思いましたが、アンケート結果や実践を実際に参観された先生からの話等から、児童が学び高め合い、学習に充実感を持ちながら取り組んでいたことが分かりました。考えることを楽しめる集団や児童を作るためにも改めてゴールを見据えた緻密な題材構成・教材の分析の大切さを感じました。
2	研修受講者のニーズが高い内容に取り組んでいただき、研修の業務に携わる立場として、興味深く拝見いたしました。研究協力校での取組や成果が大変参考になりました。
3	「まとめの問いかけ」を実践したいと思った。様々な工夫や仕掛けによって授業を展開したとしても、最終的に「本時はこれだ！」と教師が結論づけてしまえば、先に述べた効果は薄れてしまうのだろう。一方で、教師はあらかじめ、付けたい力や考えさせたい課題をもって授業に臨んでいる。その整合性を取ろうとするあまり、無意識のうちに教師自身が結論づけてしまい、答えを一つに絞って正しさを強調してしまうことがあるのではないかと。自分も含め、その点に最後まで注意を払う必要がある教師は多いのだろうと思った。したがって、問いかけて終わるのか、それともその後何らかの展開があるのかという授業デザインが気になった。
4	「逆向き設計」論に基づく「授業モデル」の有効性を証明することはもちろん、2年次は、「まとめ」と「振り返り」に注目し、「統合的・発展的に考えること」と「数学的な見方・考え方のよさ」について、授業者と児童に実感させることに重点を置いている。児童のアンケートの結果から効果も見られており、提案性の高い研究発表であった。
5	まとめと振り返りの視点を教師が意図的に投げかけることの大切さを改めて実感しました。概念的な問いかけは学習者である子どもの思考にゆさぶりをかけると共に、内容や理解の定着化につながります。現場に還元できる大きな提案だと思いました。お疲れ様でした。
6	「まとめ」にも「振り返り」にも「問いかけ」が導きとなっていることが、私たちのやりがいを喚起してくれ、嬉しく感じました。
7	私が中間報告会でした、既存知識とは？という質問は当時「失敗したな…」とっておりましたが、それを踏まえて、分かりやすく説明いただきました。次年度も関連のある研究が展開されるようなので、楽しみです。
8	まとめと振り返りが、深い学びにつながる鍵であると再認識した。授業の終末に「今日は何が分かった？」と聞くだけでなく、「なぜ？」「どうしてそうなると思う？」と、もう一歩踏み込んで聞くことを大切にしたい。単に答えが分かった時よりも、その理由(仕組み)に気づいた時にこそ「あ、そういうことか！」と子供たちは目を輝かせるのではないかなと思う。ルーブリックを児童生徒と一緒に作成することに関しては、メリットとデメリットがあるのではないかと考える。児童生徒が、課題や学習目標を自分事として捉えられるメリットは大きい。しかし、評価基準が曖昧になる可能性もあるのではないかと。ルーブリックは、学習者が「具体的に何を頑張ればよいか」が見えるものであることが大切だと思う。児童生徒と一緒にルーブリックを作成する場合は、指導者が教材研究を入念に行った上で、事前にある程度落としどころを考えておかなければならないと思う。
9	ルーブリックを授業者と児童の話合いから作成し、そのルーブリックを振り返りの視点とすることで、学習の見通しを立てることや主体的な取組に繋げることができることを提案していただいたことが特に印象に残りました。
10	まとめと振り返りの在り方についての研究成果が現場にとって特に意義深いものであると感じた。ただやらせるのでなく、発表にあったように「問い」かけねばならないと思います。現場に生かしやすい提案でした。活用という点で言えば、既存知識を用いて概念的な理解を育むことが提案された。この点については近年においても「汎用性」としてずっと叫ばれていた点であろう。しかし、この2年間の提案で新しくしたのは、「知の構造図」という教材分析の在り方であった。この点においても、本提案は意義深いものであったと考える。
11	特に「まとめ」「振り返り」の充実について、自分の経験からも課題だと感じていたため、今回の発表を聞き、子供に問いかけて子供自身が「まとめ」「振り返り」ことが学びの深まりにつながることを感じました。

12	<p>「既有知識を生かす」ということに焦点が置かれた非常に興味深い内容でした。また、児童自らがルーブリックを生かして振り返りをするというのも、メタ認知に効果的なことがとても学びになりました。</p> <p>一つ分からなかったことは、「新たな学習に『既有知識』を生かす」ということはよく分かったのですが、研究の目的にある「生活に生かす」というところにおいてはどのような研究成果だったのかが気になりました。なかなか学習成果が日常に転移していかないという問題から現在のコンピテンシー・ベースのカリキュラムになっているかと思うのですが、既有知識が日常に転移しやすい学習とはどのようなものなのか、ぜひ教えていただきたいなと思いました。</p>
13	<p>逆向き設計論や知の構造図という言葉は、今年度初めて知り大変勉強になりました。実践校での取り組みが詳細に報告され、先生の問いかけで子供からどのような反応が返ってきたかが具体的に示されておりました。数学のよさを子供たちがどう感じているかに大きな変化があったことに驚きました。教師の問いかけはとても大切だと思いました。</p>
14	<p>これからの時代は、ますます概念的理解で得た知識が必要になってくると思うので、逆向き設計で授業を設計した実践報告を聞くのは、大変参考になりました。概念的理解を意識した授業は、子供の算数好きを増やすことにも効果がありそうだということ、まとめや振り返りを充実させるには、教師の「問いかけ」が鍵だということもよく分かりました。</p>
15	<p>全国学テのアンケート結果で、算数の好きな子が少ないことがショックでした。ただ計算ができる子ではなく、どうしてそうなるのか考えたいという探究心をもって主体的に学べる児童を育てていきたいと思いました。</p>
16	<p>(発表者自身のコメントです)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学習指導要領改訂に向けた議論との関連も深く、他教科・他校種への汎用性のある授業モデルだと思うので、普及に努めたい。</li> <li>・「授業をしっかりとやりたいよ～」というニーズに対し、総教セとしてどう対応していくのかについても考えていきたい。</li> </ul>
17	<p>既習事項から新しい内容を解くことができると分かると、子どもたちが算数に対してのワクワク感が高まるということが結果として出ていたので、他の教科にも関連するのではないかと思う。そして、主体的に学ぶ子供が増えるのだと感じる研究内容だった。</p>
18	<p>子供が主体的に考えることができる学習課題を取り入れることで、前向きに授業に取り組もうという気持ちを育てることが一番のポイントだと思いました。一方で、学習課題やルーブリックを設定するということがとても難しいと感じています。逆向き設計を用いて、校内全体で考えることが大事だと思いました。</p>
19	<p>協力校での授業実践の成果を分かりやすく紹介しており、他教科にも汎用性のある研究内容だったと感じました。</p>

20	<p>坂田先生、お疲れ様です。 『逆向き設計論と高校社会（歴史・地理・公民）の授業づくり』について、話を聞きながら考えてみました。</p> <p>●従来の授業展開＝社会の教科って暗記科目なの？受験で役に立つの？ →多くの生徒らから声を聞いてきました。相談者の中には、苦手な教科が「社会」と答える高校生が多く「既習事実（学習）」が何に結びつくのか…</p> <p>○講義を終えての授業展開＝『逆向き設計論と意識』に注目 →「自分を動かす…社会を動かす…原動力は『…したい！なりたい！！やりたい！！』意識」。つまり、どんな未来（生き方・あり方・社会に…）をイメージできるか？授業はそのきっかけ（ニサキドリ）である。</p> <p>前提として、 ①『世の中には面白いことがたくさん！知らないことだらけ！！』であること。 ②役に立つより「好き」「興味関心を持ちながら視野を広げ、複数の視点でとらえる授業」と考えました。 例：授業のテーマ「地方自治とふるさと納税…地域づくり…」 →住んでる市町村の一員として、あなたなら？ →文系的視点、理系的視点、体育的…福祉的…〇〇的…学校やクラスに応じて幅広い視野で未来志向（自分事や世間事）としてアウトプット（考えるから自らの口で話す＝振り返り）を多めにする「どんなワクワクの未来を作りたいか！という意識は、テーマが変わろうが永続的理解につながる」と考え機会となりました。</p>
21	<p>既有知識を課題解決に結びつけて、子どもに分かりやすく理解させている。学習効果を高めている。このような授業デザインは非常に考えられ、練られている。また、たいへん分かりやすい発表であった。</p>
22	<p>自分がこれまで実践してきた算数科の授業について振り返り、本研究で示されたことをもとに、授業改善を行いたいと思った。</p>
23	<p>授業後の子どもの振り返りについても発表がありましたが、自分の学びを十分に振り返ることの難しさを改めて感じました。教師が「こうだよね」と子どもの学びを決めつけるのではなく、自分で適切に振り返ることができれば、次の学びや実際の生活にもつながると感じました。私自身がこれまで接してきた生徒のことを思い出すと、繰り返し取り組むことで、振り返り自体もより良くできるようになるとも感じます。</p>
24	<p>算数が得意になるのは計算練習でも、身近なものとの関連でもなく、既習知識とつなげられるかが大事だと明らかになった。</p>
25	<p>1年次の成果と課題をもとに2年次の研究に結びつけられた経緯が分かりやすい研究でした。既有知識を結びつけるには、メタ認知が必要であるし、問いかけが大切だということを感じました。また、ルーブリック評価があることで、子どもも教師も振り返りを行いやすいし、逆向き設計論に基づいた知の構造化が指導力の向上につながると感じました。「授業が変われば子どもが変わる！」まさにその通りだと思います。報告書だけでなく、調査研究校の実践を小教研等で紹介して、広めていただきたいと思います。</p>
26	<p>数学の教員を目指している身として、「既有知識」をつなげるという考えはとても重要だと思いました。既有知識を活用するためには、その定義の理解がしっかりできていないといけないと思います。そのため、中高の数学ではより指導の工夫が必要になると感じました。</p>
27	<p>「なぜの問いかけにより、永続的理解に結び付く」と言う言葉が心に残った。なぜの問いかけで考える子はそうであろう。なぜの問いかけをどう受け止めるかによって子どもの対応が違うということも意識したいなあと思いました。ありがとうございました。</p>
28	<p>スライドの内容、説明の言葉がとても洗練されていて、研究のポイントがとてもよく伝わった。難しい内容も多いが、その分、もっと知りたい、論文も読んでみたい、という思いをもってもらえる発表だったのではないかと。自分は自己調整やメタ認知に関心があるので、「まとめ」「振り返り」「ルーブリック」等についての研究・考察がとても参考になったし、論文を読み返してもう少し深めたいと考えている。とても興味深い学びや気づき、探究意欲を与えていただいた。ありがとうございました。</p>

29	生徒自ら問を立て、既習知識を使いながら学んでいくことは素晴らしいと思います。そんな教育を子どもに受けさせたいと思います。一方で、学習の困りを抱えている生徒たちに日々接しているので、既習知識が積みあがっていない人には辛い時間だろうとも思います。できる人はさらに上へ向かえると思います。2年間お疲れさまでした。
30	ループリックやメタ認知は今後の教育を進めていくうえで、大切なキーワードだと思います。本研究をきっかけとして、広く現場にもこうした考え方が広まっていくことを期待しています。
31	最後に、校内研修活性化研修会の紹介をしていたのが、よかったです。調査研究と総教セの研修会を結び付けることで、研修会への参加者が増えると思いますし、参加者の資質の向上にもつながると思います。
32	「意識へのアプローチが不足」との言葉に考えさせられました。
33	「まとめ」と「振り返り」に教師の問いかけが加わることで統合的・発展的に考えたり、数学的な見方・考え方やよさを感じたりすることができるので、教師が教材研究を行い、適切な声かけをする必要があると思いました。
34	発表おつかれさまでした。とても分かりやすく、また説得力のある発表でした。参加者にとっては、児童の変容が見られたことにより、この研究の有用性を強く感じることはできたのではないのでしょうか。
35	ただ単に、知識・技能を指導するのではなく、学問の本質も部分に触れている点がとても印象的でした。「見方・考え」を意識させた指導にも共感・納得しました。どの教科でも活用でき、我々が意識すべきこと（本来の学びの意義）について再認識できる発表でした。

No	研究2 科学情報部（発表：二塚 裕子）
1	「科学的に探究する」ことにつながる具体的な手立てが参考になった。「注目発問」「着目発問」は、教師が無意識に行っている場合が多いと思うが、このように検証されることで、教師自身も自分の発問の流れを捉え直す（メタ認知する）ことができると思う。ICTの活用については、ICTを操作する中で多くの気づきを得たり、より探究を深めたりすることができるなど、可能性がとても大きいと感じた。理科の授業の探究的な流れの中の多くのアイデア、提案をいただき、自分も生かしていきたいと感じた。ありがとうございました。
2	とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）は授業改善の視点として「生徒の問題（課題）意識を高める」ことと、「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」ことを挙げている。今回の科学情報部の発表の研究2「①課題意識を高めるための手立て」「②見通しをもって課題解決に向かうための手立て」はこの学プロⅢ期の視点と重なる部分が多く、専門教科でなくとも興味をもって発表を聞くことができた。注目発問・着目発問は、子供たちの課題意識を高めるとともに、見方・考え方を働かせるトリガー（引き金）となって、深い学びへと導く大切な役割があると感じた。
3	ICTの利活用に関して、「他者参照」がやはり有効であるということが感じられた。そしてとても良いと思ったのは、「見ない」という選択肢も認めるということであった。子供同士のかかわりという点で、グループ活動は重要である。しかし、グループの縛りがあるのも個別最適ではない。ICTが解決する可能性を感じられた。理科として気になったのは、「仮説」がどれほど言語化できていたのか、どのようなプロセス（白紙？～たどたどしい？誰の書きぶりからどのような着目点をもらって～言語化？）があったのか、一つ具体があるとさらに分かりやすかったように感じた。
4	目に見えないもの、頭の中を見える形にすることが、ICTによるモデル図を用いた仮説構築の意義だと感じました。授業デザインシートが校内で共有され、教員同士が学び合うきっかけにもなれば良いと思いました。
5	「注目発問」と「着目発問」とあるように教師側が意図を持ったうえで問いかけることが重要だと思いました。自分の専門である数学に置き換えて考えたとき、これほど生徒が興味や疑問をもつような問いを投げるのは難しいとも感じました。
6	すごく専門的なお話だったのですが、分かりやすく説明なさっていたと思います。現場での実装可能性をさらに高めていかれる次年度かなと思いました。
7	授業の設計の中で、生徒たちそれぞれの仮説をICTを使用し発表しあえたり、他人の意見を参考に考える機会を持てることは素晴らしいと思いました。
8	映像で見た子供たちの素直な反応、子どもはどんなことを考えて話しているのか想像していました。そのための、着目発問と注目発問、学びになりました。ありがとうございました。
9	ICTの活用により、生徒自身で授業のデザインシートを作成したり、実験の結果予想を何度も考え直したりして、意欲的に取り組む生徒が増えることが分かった。授業のデザインを生徒がする活動を、私も取り入れたいと思った。
10	授業デザインシートの「発問を考える手順」の順番に疑問を感じたのですが、自分の授業展開を考え当てはめてみると納得することができ、汎用性が高い素晴らしい順番であると思いました。
11	FigJamが紹介されているのがよかったです。研修部のように、最後にFigJamの研修会を紹介してもよかったですと思います。
12	課題意識をもつために発問を工夫する、必要な情報を収集したり、目に見えない粒子について考えたりできるようにICTを取り入れるなど、中学校の理科の学習過程を探究的な学習にするための例を示していただきました。総合的な学習の時間だけではなく、各教科の場面でも探究に必要な力を身に付けていくことができたらいいと思いました。
13	注目発問と着目発問を意図的に投げかけ、視点を学習課題にもっていくという流れ、研修部の振り返りでもそうですが、日常的に行われることの有用性を感じました。次第に子供たちが何に注目すべきか、見通しを持ちながら取り組んでいけるようになると思います。またICTを効果的に取り入れ、他者の視点を参考にしながら学びを深めていく過程もなるほどと思いました。ありがとうございました。そして2年間本当にお疲れ様でした。

14	<p>二塚先生、お疲れ様です。 『未来志向：自身のやりがい・生きがいをつくり出す創造力と検証計画・課題意識の視点をもった授業づくり』と勝手にタイトルをつけながら話を聞いていました。</p> <p>◎坂田先生の『逆向き設計論』＋二塚先生の『探求力』をブレンド ・高校の社会は暗記科目？何に役立つの？（俺には関係ないね…） ・『課題意識』を高めるためには？ 高い→まずは自分事（やりがい・生きがい）として考えてみる。 ※アウトプットはできるだけポジティブシンキング（未来志向） 低い→世間事（世界の出来事？…日本？…富山県？…地域…）はスケールが大きすぎる… 自分事として見れない…興味がない… ・『既習事実（学習）に対する疑問・批判（≒吟味）』 →自分自身への着目発問と注目発問（どうなる？どうして？本当にそうなのか？）</p> <p>例：「2026年2月8日衆議院議員総選挙」</p>
15	お疲れ様でした。
16	見るたびにスライドがバージョンアップしており、すごいなと思いました。子供が自分事として課題について考え、見通しをもって取り組む学習過程は、どの教科においても大事にしたいです。
17	理科において、科学的に探究する授業について様々なアプローチで検証されて素晴らしいと感じました。特に、最後の実践3の検証計画の立案においては、ヒントカードの使用で個々の生徒が立案できる工夫がされており、また、実験条件を考える際、グループやクラスでの情報共有により、多くの生徒が実験方法をブラッシュアップできているとの検証があり、こちらも一人一人が主体的に探究活動に取り組むことができる方法を示してもらったと感じました。
18	普段、私自身が大切にしている点と重なる発表で、共感できる点がたくさんありました。授業時数の点での課題がありますが、私の実践では比較的順調に進んでいます。 ブレイクアウトルームでも話題に挙げましたが、（論点が違うのですが）主体的に授業に参加できない生徒への支援が非常に難しいと感じています。導入の工夫や生徒同士・生徒と教師をつなぐ工夫など、自分なりに取り組んでいます。なかなか成果が出ていないのが実態です。
19	特に理科の仮説の設定や検証実験の計画などで参考になりました。また、汎用性の高いデザインシートや発問手順シートなどはいろいろな単元での活用ができそうです。ダニエル電池や植物の光合成では、仮説を立て、実験方法を生徒が決めるときの提示の仕方など参考に実践してみたいと思いました。なんとなくぼんやりとしていたことをはっきりさせることができそうです。校内でもお勧めしたいです。ありがとうございました。
20	中学校理科の授業において、生徒に課題意識と仮説、検証の見通しをもたせて学習させることはとても大切なことだと思います。生徒が見通しをもって課題の解決に向かう授業に汎用性をもたせようと研究を進めた視点が素晴らしいと思いました。生徒たちが、「やらされている実験」から「自ら確かめたいという気持ちを持ち、この実験をしたら、こういうことが分かるはず！」という思いで学習に取り組むことができれば、ますます理科好きの生徒が増えるのではないかと思います。多くの先生方に知ってもらいたい研究内容だと思います。
21	前回よりもさらにパワーアップしたスライドになっていて、とても分かりやすかったです。「発問手順シート」もパワーアップしていて感動しました。事前に子供の生活体験等を予測しておくことにより、より学びを子供の文脈で捉えて構想できるなどと思いました。そこから、子供が主体になる学びが生まれていくと思います。さらに、その生活体験や既有知識が、学習後にはどのように変容していくことが予想されるのか、そこもあらかじめ考えておくとともに子供の文脈で授業構成ができそうだなと感じました。ありがとうございました！
22	授業デザインシートのテンプレートがあることで、授業の構想がとても立てやすいと思います。教師の発問に焦点を当て、生徒の気づきを促す注目発問と主題の解明にせまる着目発問から授業をデザインすることで、短時間に授業計画を立てられるようになりたいと思います。

23	本県でも見通しをもつ活動を充実させることを、重点として掲げております。小・中学校の理科に関する研修を担当しているため、昨年度と今年度の具体的な実践が非常に参考になりました。二つのシートも楽しみにしております。
24	児童生徒が自ら課題をもち、課題解決に向けて学習を進めていく様々な手立てについて、勉強になりました。特にICTの効果的な活用について、よい取り組みを知ることができました。
25	子供が仮説を立て、検証計画を立案するための手立てを具体的に示されていた点がとてもよいと感じました。授業シートは、活用できるもので、広く周知したらいいと思います。
26	検討段階から自分も勉強させていただいたので、自分自身も学びになりました。探究というのは理科だけにとどまらず、他教科でも生かせる考え方だと思います。他領域という枠を超えて他教科という視点でも広がりを見せてほしい研究でした。
27	大変丁寧にデザインシートを作成されていてすばらしいと思いました。 2 研究2 授業実践 ②見通し「仮説の設定」に関する手立ては、生徒が個々にモデル図を作成したあとに検証の視点を明確にする話合いを設定されていて、生徒が抱いたイメージや考えを言語化し、視点を明確にするのに効果的であると感じました。ダニエル電池は内容が難しいところだと感じていますので、このような複数の手立てを効果的に取り入れて、見通しをもたせていきたいと思いました。
28	「研修計画の立案」は実際に実験・実習ができない教科でも使えるような学習だった。
29	「問い」の重要性について改めて気づかされるご発表でした。授業を成り立たせるための要因として、教師の熱量もさることながら、児童生徒の好奇心を如何にくすぐるかも大事だと思っています。他者参照の効果的な使いかたもご提示いただき、大変参考になりました。
30	学力差がある中学生が主体的に学び、探究する力を付けるための足場かけになる取組だったと思います。学習意欲があまりもてない生徒を学びに向かわせるのは難しいです。事前の準備等は大変だと思いますが、Class roomの中に参考動画があったり、分子モデルや試験管などを操作しながら考えられたり、思考の手助けがあることは、学習に対するモチベーションを高めることにつながったと思います。ICTを活用し、他者参照できる仕組みも、グループ活動などで発言できない、そもそも授業に参加できない子が、他の人の意見を参考に考えられるきっかけになるとと思います。また、学習が難しい子だけではなく、より発展した学びを深めたい生徒にも、着目発問や注目発問の投げかけは、響くと思いました。物理、化学、生物など、分野がたくさんある理科だからこそ、教科のおもしろさを伝えたり、わかる喜びを感じさせたりして学習意欲を喚起することができると感じました。2年間の研究本当におつかれさまでした。たくさんの学校に広まればよいと思います。
31	探究が一つのキーワードとなっている現在において、教科の授業においてもその視点を踏まえた実践として大いに参考になった。今回は研究として多くの準備を重ねた上での実践であるという印象を受けたため、提示していただいた内容のすべてを日常的、あるいは一定の頻度で現場に取り入れることには課題も多いのかもしれない。しかし、その一部であれば比較的取り入れやすいのではないかと感じた。 特に印象に残ったのは「発問」の視点である。発問を意識することによって、生徒の学習はより探究的なものへと深まる可能性を秘めていると感じた。今回の話は、単に教師が課題を設定するという事よりも、生徒に課題意識をもたせることの重要性に重きが置かれていたのだと理解している。毎時間それを実現することは容易ではないが、さまざまな手立てを講じることで、局所的にでも生徒自身が課題を設定する場面をつくることは可能であり、ぜひ実践してみたいと思った。
32	2年間の集大成が見事に表現されていたように思います。大変お疲れ様でした。今後、県内外で授業デザインシートや発問手順シートの活用が望まれます。
33	「根拠」をもった仮説の設定など、2年次にブラッシュアップされている点がよかった。
34	自分で考えたい児童に、ヒントカードや支援は必要ないという言葉に共感しました。小学校の授業でも、ヒントカードをあげることによって、その考えに固定させてしまうのではないかと、議論されています。どのタイミングでヒントをあげるか、支援をするか、難しいです。
35	細やかな手立てや工夫、具体的な発問、ICTの効果的な活用、シートの活用を聞かせて頂き具体的に実践をイメージしながら発表を拝聴させて頂きました。毎回は出来ませんが、ここぞという時の授業に活用させて頂きたいと思いました。
36	発表おつかれさまでした。特にスライドがブラッシュアップされていて、とても見やすかったです。また、授業デザインシート、発問手順シートも魅力的で、参加者にとっては早く使ってみたい、と思ってもらえたのではないかと思います。
37	この研究と一緒に携わらせていただいたこともあり、これまで考えてきたこと、大切にしてきたことを再確認できた。今回の授業の作り方は、理科だけでなく、どの教科でも、どの校種でも活用できると思い、どう汎用させていくのか考えていきたい。

No	研究3 教育相談部（長谷川 昌也）
1	私たち教師は「ねば」「べき」にとらわれていると思う。この支援シートを見て、自らのあり方を振り返り、児童・生徒に寄り添うこととはどういうことなのか？と、常に問い続けられる教師でありたいと思う。
2	「相談」ではなく、「教育相談」に特化した研修が今までなかったので、とてもありがたいです。生徒と教員の意識の差を知ることができたのもよかったです。場面緘黙の生徒もいるので、指差しシート等の各種ツールを使ってみたいと思います。次年度の1学期の教育相談から活用できそうなので、このタイミングで聞くことができてよかったです。
3	個人的には相談（高校では「面接」ということが多い）の時間が好きです。生徒一人一人と向き合える時間は大変貴重な時間です。指差しシートは活用したいです。
4	アンケート結果から子供たちの定期相談への意識を知ることができ、「教師としてこうあるべき」という自分の勝手な思いにとらわれていることに気付きました。ぜひ相談シートを活用したいです。
5	教育相談が充実することは、教員、児童生徒、保護者全てにとって大変価値のあることだと思うので、とても意義のある研究であると思う。個人的には、児童生徒が教育相談を肯定的に捉えているデータを知り、安心した。現場の先生がこの研究内容や支援シートを知れば、教育相談に安心して取り組み、児童生徒とよりよい関係を築いていくことができる、とても明るい希望もてる研究だと感じた。管理職への研修、若手研修、小中学校であれば、地教委による生徒指導担当者の研修等で広め、校内研修で取り上げてもらうことが望ましいと考える。現場の助けとなる有意義な研究をありがとうございました。
6	一年間、教育相談部として、大変お世話になりました。チームで研究をしていくことを体験的に学べたと思います。ブレイクアウトルームで好評をいただくコメントが多く、我がことのように嬉しく感じました。全然そうではないのですが、積極的に参加してきてよかったです。
7	ナビページのレイアウト等が変わっていたり、読もうかなという気持ちにさせるようなシートの内容を厳選してあったり、改良を重ねていらっしやっただことがよく分かりました。15分講座のアイデアもよいと思います。中間発表でも感じたことですが、シート等を校内研修で活用したいと思いました。
8	アンケートをとり、学期に1回教育相談を行っています。先生と1対1で話することに緊張する児童も多くいるので、もっと頻繁に定期相談を行い、気軽に話のできる関係性をつくるのが大切なのだと思います。支援シートも使ってみたいです。
9	支援シートの冊子形式の良さの説明が、とてもしっくりとききました。デジタル時代に逆走しているという声が多いのですが、「全体の構成の俯瞰」には共感します。さらなる改善を重ねておられる姿勢が素晴らしいと感じました。
10	大切な定期相談の機会をどう生かしていくかという研究の視点が、現場の先生方にとってとても有用感のあるものだったと思います。子供たちの悩みを引き出そうと頑張るのではなく、子供たちの日頃の頑張りを認め、子供たちとの関係づくりに役立たせるという視点は、とても参考になりました。また、「定期相談サポートシート集」を作成しただけでなく、「導入ミニ研修」やいかに使いやすくするかを追究し、とにかく先生方に役立ててほしいという長谷川先生の熱意がこもった研究内容が素晴らしいと思いました。
11	この支援シートは初任者はもちろん、経験豊富な先生方にも定期相談について考え直すのに役立つと思います。そのため、どうやって資料を見ていただくかをずっと考えていました。その中で、研修会を行ったというのはとても良いと思いました。シートだけでなく、この研修会を広めることで、シートの周知だけでなく理解も深まると思います。
12	定期相談に限らず、学校の教育相談全般にも活用できるサポートシートだと感じました。教員と児童生徒の意識のギャップを埋めていくことで、教育相談がより有意義なものとなるよう、校内でしっかりと事前準備をして相談に臨めるように校内体制を整えていきたいと思っています。
13	自分自身のこれまでの教育相談のあり方を振り返って聞くことができた。約10年ほど前に富大に内留して教育相談について学び直す機会があったが、それまでほぼ自己流で進めていたため、このような定期相談サポートシートのパッケージがあることで、若手の先生方もよりよい教育相談のあり方について学ぶことができるし、結果として子供たちの負担・不安軽減につながる感じた。

14	今年度の研究では、面談を教師の視点だけではなく児童生徒の視点も含め、双方向から考えておられました。児童生徒の面談に期待することや、面談に向けた構えを知ることができたのは、大きな収穫だと感じます。さらに、数多くのワークシートの製作も、お疲れ様でした。面談に向かう先生方が、このワークシートをお守りにして、面談室に向かうことができるように思います。総教セのHPに公開されましたら、ぜひ、利用させていただきたいと思います。この2年間、さまざまな取組の中で、たくさんアイデアを出したり、議論し合ったりされたことと思います。本当にお疲れ様でした。素晴らしい成果につながられたことに、頭が下がります。同時に、とてもうれしく思います。長谷川主任研究主事さんはじめ、教育相談部のみなさん、お疲れ様でした。大変、勉強になりました。ありがとうございました。
15	支援シートについて、1～2種類ではなく、11種類ものご提案があり、早速現場で使ってみたいと思いました。支援シートに関する校内研修のご提案も素晴らしかったです。初任の教員にとっては、特に、必要感のあるものだと思います！
16	児童生徒理解の重要性や必要性が様々な研修等で学校現場に伝えられているところであるが、実際に教員と話してみると、理解が広がっていないことを実感することがある。問題点として教師主導になりがちであること、中学生にとっては「怒られる」場と感じてしまうことなど問題点をアンケートから明らかにしていただいたことで、現場の教師への問題提起に非常に有効であった。学年が上がるにつれて相談することへのメリット、デメリットの中で揺れる心理状態も非常に納得できる内容であった。日常的な教育相談への意識の向上とともに、定期的な教育相談に対する教員・児童生徒とももっている「(仕方なく)やっている感」の払拭には非常に有効であると感じた。ぜひ、HPも拝見して、当県でも活用させていただきたい。
17	昨年度、定期相談の在り方について、教育相談部の皆さんとの研究に参加させていただき、その後が気になっていました。現状や課題が見えてきて、支援シートを作るにしてもどんなものを使いやすいのか、現場で使ってもらえるのか、悩ましいと思っていました。今日の長谷川先生の発表をお聞きし、児童生徒のアンケートとの照らし合わせで見えてきたずれ、それをうまくカバーする丁寧な支援シートの提案に、感激しました。本当に素晴らしかったです。ものすごく苦勞されたと思います。根拠が明確で、発表は理路整然としていて分かりやすく、話し方も穏やかで聞きやすく、大変勉強になりました。ありがとうございました。
18	この1年、毎日、未明まで準備しておられた。基本の考えだけでなく、ディティールまでこだわりが見られた。しかも、月曜日のリハーサルからさらに進化していた。
19	子どもが主語にして、教師も児童生徒理解を深めていく大切な提案だったと思います。学校現場で子どもが教師とのやりとりでどう感じているか、そこで生まれる相互作用から教師も自己理解を深めていくことの大切さに気付いてもらえたらいいなと思いました。お疲れ様でした。
20	<p>昨年教師の捉え、ニーズ、思い。今年の子供の捉え、思い。そこから支えになりそうなシートを多数用意されたのは、現場を意識したものとして機能するのではないかと思った。発表の中でも「役に立った」という回答も多かった。</p> <p>ただ、「何に」役立ったのかということが分かりにくかった。「共感的理解」「双方向のコミュニケーション」に関わることだったのかという点である。</p> <p>今後、この作成されたシートが年次研や講座等で活用される中で、このシートをブラッシュアップされていくと言っておられたので、その中でどのように”効果測定”を図っていくのか明確にすることが今後さらに現場に返るものになっていくのではないかと思った。</p>
21	<p>先輩、お疲れ様です(*^▽^*)</p> <p>圧倒的なプレゼン力！これまで見たことがないくらい、唯一無二の資料であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→「こだわりは強み！（自分が大切にしたいこと・やりたいこと）」</li> <li>→「遊び心も兼ね合わせた発表は自身をドキドキワクワクにさせる原動力」</li> <li>ゆえに「新しい独自の発想（視点）が生まれる」</li> <li>→「何を伝えるのか？だけでなく、『どうこだわりを伝えるのか！』」</li> </ul> <p>◎長谷川先生の発表はされことながら、部長と専門員が日頃からメンバーに「それ面白い！いいね！！やってみよう！！！」と常に背中を押してくれる姿ややる気の炎を灯すマネージメント力も仕事の関わり方という面で勉強になった。</p>

22	定期相談を、教師側と子供側から捉え、ズレに着目して支援のシートがつくられていました。シートは使う側に配慮して、文字数を減らしたもので、大変使いやすそうでした。子供の困り感を聞き出し、その解決を図らねばならないという思いに取りつかれていた自分を恥ずかしく思います。
23	教育相談の重要度が高まる中、支援シートと研修をセットで開発された点が素晴らしいと思います。
24	面接時における子どもの気持ちが十分伝わってきた。このような子どもの気持ちを理解しながら、教師は面接に臨まなければいけないと思った。子どもが多くを語る面接にしなければならない。教師の工夫が必要である。このような面接の心得は、高校においても活用したい。
25	相談活動について自分が感じていた悩み（特に「こうあるべき」の項目）が、自分だけのものではなく多くの先生方も感じているということが分かり、相談活動への緊張がほぐれました。これまでは、相談活動への緊張や構えの原因は、自分の能力不足からくる不安が起因していて、相談活動を上手にできるようになるためには、もっと知識を増やすことが大切なのだと勘違いしていました。しかし、今回の調査研究を拝聴して、『「こうあるべき」ほぐしシート』で「こうあるべき」思考を具体的な言葉にして提示していただけたことで、自己理解できていなかった、自分の思考の偏りを知ることができました。また、シートのステップ2・3を読むことで、本当におまじないにかかったように気持ちがほっとしました。語りかけや投げかけの例にある実際の言葉もとても参考になります。きっとこれまでの相談活動は、カチカチの心で、眉間にしわをよせて必死の形相でしていたと思います。もやもやしていた悩みに、ストレートに、そして具体的な解決策でアプローチしていただけたことがうれしいです。ありがとうございました。
26	自分も現場にいるとき、まさに同じ状況に直面しました。教育相談をすることが目的となり、どれほど意味のある相談になっているのかわからない相談ばかりでした。本研究で、自分自身もそうですが、多くの先生方が意味のある教育相談を行うようになるのではないかと感じる研究でした。
27	総教セの先生からレクチャーを受け、実際に支援シートを活用しました。「生徒の話を、先生がしっかり聞く」これまでと異なる視点で教育相談ができて、私は有意義な時間となりました。この変化について生徒がどのように感じたのか、気になります。
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手に取ってみようと思うシートの提案がよかった。訪問研修や年次研等、いろいろな機会を捉えて、普及できればいいなと思いました。</li> <li>・今回の研究主題は「提案」だったのですが、シートを使ってみた教師の「気づき・手応え」や実際の児童生徒の「変容」について、今後の研究の可能性を感じるものであった。</li> </ul>
29	教育相談について、教師の視点だけでなく、子供がどのように受けとっているのか知る機会となった。子供は、緊張感をもっていることをこれからは意識して定期相談に臨もうと思った。サポートシート集は、活用したいと思う内容だった。校内研修等を通して、教師全員が同じ目的、意識をもって子供たちと関わられるようにしていきたい。
30	発表おつかれさまでした。スライドのグラフなどが見やすく、またアニメーションを駆使しておられてすごいと思いました。恐らく生成AIを使って作成されたであろう、多くのイラストも効果的でした。支援シートの最終版、早く見てみたいです。
31	どの学校でも行われている定期相談について、なかなか学ぶ機会はなく、他の先生方の定期相談を見ることもできず、私自身も手探り状態でした。どのような意義をもつものなのか、教師自身がどのような思い込みをもっているのか、そして子どもたちの思いについて知るだけで、どのような教育相談にするかは変わってくると感じました。1年間、ありがとうございました。
32	定期相談という、教師側から子供のためと思いついて実施している支援を子供側の視点で捉え直してつくられた支援シートを作成していただいたことでより効果的な定期相談になると感じました。今後は、発表でもありましたようにこのシートを先生方に理解してもらい、利用してもらうことができればよいと感じました。今後はぜひ、発達段階的には難しい高校生の教育相談に向けての支援シートがあれば高校現場にとっても大変役に立つのではないかと感じました。
33	学期末にある学校評価アンケート、その後に行っている教育相談週間をイメージしながら発表を聞かせて頂きました。これまでは、短い時間の中で、何としてでも子供達の困り感を聞き出し、その悩みを解決したいと考えていた時間でしたが、その考え方がズレていたのだと思われました。子供達が話したいことを話す時間とすることができるよう、教員側の心もちを少し変えていきたいと思いました。

34	アンケートから、教師、子供の実態の現状把握、分析、対応策をととても精緻にしておられ、研究をしていく際の手本にしたいなと思う流れでした。特に、冊子を作られたということで、早くそれを拝見したい思いです。他の部署にも言えるのですが、それぞれで作られたものを富山県中にしっかり広めると、本当に現場の支えになると思うので、ぜひ広めていただきたいなと思いました。自分もどんどん活用していきたいと思います。ありがとうございました。
35	定期相談について、目から鱗でした。悩みに限らず、子供のこと（興味・関心、推し等を含め）をよく知る場ぐらいに考えれば、教師も子供ももっと気軽に臨めると思いました。
36	教職に就いた誰もが経験したであろう定期相談の難しさを調査研究テーマとして取り上げられた点が素晴らしい。教師の思いや傾向と子供の思いや傾向を比較分析し、子供の期待と不安に寄り沿い、教師がどんなことに気を付け、面談の目的を明確に持って臨めるように開発されたシートが画期的。特に「こうあるべき」ほぐしシートは最高です。とてもありがたい研究でした。
37	一年間お疲れさまでした。シートなど、たくさん物を作られるのは大変だったと思います。作られた思いが正しく伝わればよいなと感じました。物だけが独り歩きしないように、一年次に見出した「教師の共感的理解と双方向のコミュニケーション」の妨げになるのは何か？検証した結果はどんなふうに確かめられるのだろうか？と今後の活用について、追跡調査をしてほしいと感じました。
38	定期相談に焦点を当てて研究をするのは、あまり聞いたことがないので、今回の研究で作成した支援シートが各学校で活用されればよいと思いました。

No	今回の発表は、今後どのように活かしていくことができるか。
1	子供のゴールの姿を想定した単元構想、授業導入時の「問い」の吟味、定期相談前の相談内容の共有・生徒の不安解消
2	相談活動といった場面だけでなく、児童生徒との日常的なやり取りにおいても、とても活用できると思いました。児童生徒をみる、感じることを大切にしていきたいです。
3	今回の発表は、子供の考えを知ることができたので、授業づくりや相談への姿勢を工夫していきたいと思った。また、自分だけではなく、校内研修等を通して、多くの教員で共有したいと思った。
4	まずは実際に活用してみる、そこで自分自身でどう感じたか振り返る、そのようにしながら理論と実践を自分に落とし込んでいきたいです。
5	「こういう取組があるよ」「この資料を使ったらどうかな」など、よさを広めたい。
6	現在の教育の大きな課題が具体的に示され、解決に向かう手立てが紹介された。自分にとって大きな課題はICTである。現在の業務でも、グーグルワークスペースの活用は必須である。自分にできることを増やしていきたい。それは授業でも教職員研修でも活用できることであろう。
7	学校の先生方が使いたくなるという意味で、どの発表も価値のあるものだと思います。学校に戻った時、先生方がこの発表を聞いたとしたら、どのように感じるだろうか。そのようなことに思いをはせていました。そもそも、先生方はどんな人を育てたいと思っているのだろうか、どんな大人になってほしいと思っているのだろうか。そんなことを考えました。
8	次期学習指導要領の方向性を読み解く際に、今回の授業実践の報告と照らし合わせながら理解できるように努めていきたいと思いました。
9	チームで研究にあたることを体験的に学びました。専門性は高く、理想も高くありますが、現場へのハードルは低く…という差が難しいところだと思います。どの研究も素晴らしいのに、多忙だから…、普及するか…？という心配をするのが共通していて胸が痛みました。現場にいれば、平易だけれど効果のうすいものに飛びつきがちで申し訳なく思いました。
10	学校現場に戻った際、ぜひ活用してみたいと思います。
11	院生として、研修に参加させていただいただけでも多くの学びがあった。現場に戻ったら総教セの取り組みを多くの教師に広め、研鑽を深めていきたいと思う。
12	学校現場に戻ったときには、現場の多忙感を解消できるよう、研修からの学びを伝えていくことで教員をフォローしていきたい。
13	教職大学院の教育フォーラムが明後日にありますので、長谷川先生のように、落ち着いた語りを目指して頑張りたいと思います。また、支援シートの活用に関して、宣伝していきたいと思います。
14	すべてを網羅することができませんが、3発表それぞれ活用できる内容ばかりでしたので、学校現場に行ったときには実践してみたいと刺激を受けました。
15	市内の学校に周知し活用を促したい。
16	現状分析→実践→結果→考察→実践という流れがとても質の高いところで実践されていて、自分の今後の研究の流れの参考にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
17	3つの研究成果それぞれに、現場の先生方に役立つ素晴らしい内容だったと思います。まずは、たくさんの先生方に知っていただき、活用の場が広がっていくように促していきたいと考えています。
18	授業での課題設定から、計画の立案まで、授業を早くやってみたい。同じく生徒が安心する定期相談にも取り組みたい。
19	自分自身にとっても大きな学びとなると同時に、今後継続的に考えていきたい視点を与えていただく発表であった。また、これらの学びを必要な場で広めていくことを心がけたい。
20	「注目、着目発問」の言葉が、とてもしっくりきました。他の教員に報告し、本校でも使っていきたいです。
21	学校現場で働くことになったときに、調査研究での知見をさりげなく紹介できると、教員の気付きのきっかけになると思います。
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業デザインシート等の活用</li> <li>・数学科の教員に紹介</li> <li>・校内研修の指導案作成時に紹介</li> </ul>
23	各研究のポイントや視点を、普段の授業づくりや今後行われる教育相談で活かしたい。

24	自分の授業や生徒とのかかわり方を振り返る良い機会となりました。これからも新たな研究を聞き、自ら研鑽していきたいと思いました。
25	いただいたヒントを基に、授業でのICTの効果的な活用方法を探っていきます。 また、授業づくりの際は、デザインシートや発問手順シートを参考に、一つの単元で、ご紹介いただいた複数の手立てを組み合わせ、授業の構想を練っていききたいと思います。
26	どの研究も現場での必要性を第一に考えられた研究のため、機会ある毎に普及していきたいと思います。
27	授業づくりでは既習事項や生活経験を活かすことができる発問から、自ら学び深めていくことができる題材構成や1時間の構成をこれまで以上に教材研究をしていきたいと思いました。
28	3名のように、自分自身も常に課題を見出し、解決に向けて研修を重ねる教員でありたいと思います。
29	不登校等児童生徒への支援に関して、未然防止と初期対応にそれぞれ視点をもって、施策を立案している。今回の内容はそのどちらにも有効な視点をたくさんいただいた。シートの活用だけでなく、教育相談に対する教師の「苦手感」の払拭にも非常に有効であると感じている。児童生徒理解の在り方・考え方を周知するさいの若年教員への研修等で活用したい。
30	逆向き設計の考え方、可視化、面接時における子どもの気持ち、どれも使えるという気持ちになりました。ぜひ実践したいと思います。
31	小中学校における具体的な実践例や授業構想の手法などを、担当研修講座の中に取り入れていきたいと考えています。
32	学校現場に戻った際、ぜひ他の先生方に情報を共有したい。調研发表会を聞いて、資料（定期相談支援シートや授業デザインシート等）が欲しいと感じられた参加者は多いと思う。できるだけ早い時期に総教セHPに公開されることを願う。
33	よい発表を現場の先生方に周知したいと思います。
34	子供の学びを複数で見取ること、目に見えないものを可視化すること、児童生徒理解や子供となど、自分の校種でも活かしていけると感じました。
35	学校生活のほとんどの時間は授業であり、そこに児童生徒がいるから「学校」という社会システムが成立している。授業づくりや児童生徒理解は学校の根幹であり、自分だけではなく周囲をうまく巻き込んで、よりよい学校をつくる一員として、精進していきたいと思った。
36	教育研修部、科学情報部の研究は、UDLの視点も含まれており、通常の学級の授業において支援の在り方についての提案が期待できるものだと感じました。今までの一律の手だてから選べる手立てへ。より学びたい子、苦手な子それぞれのニーズに対応できると思うので紹介したいです。 教育相談部の研究は、児童生徒の感じ方を起点に、自分自身がどんなふうに子供との関係作りができるか、人間性が問われるな、と襟を正そうと思える発表でした。話したくない人とは無理して話さなくても、、、と思うので、関わりを大切にできる存在であらうと思いました。

No	研究発表会全体の（運営や開催方法も含む）ご意見・ご感想・ご質問等
1	オンデマンド視聴は他の業務と折り合いを付けながら視聴できるため、非常にありがたい。
2	ブレイクアウトルームで、様々な校種の先生と意見交換をしたことで、多角的な意見をたくさん聞くことができました。
3	Zoomの参加者による、意見交流の場を設定することはとても有意義だと思います。さらに有用性を高めるためには、それぞれのブレイクアウトルームにファシリテートできる人を配置して、事前打ち合わせのもと、意見の交流を図れるようにしたいと思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレイクアウトルームでは、総教セの先生がコーディネーターとして進行して下さったおかげで対話の流れができて、有意義な時間となった。</li> <li>これまでもこの研究発表会を参観させていただいて、とても学びの多い時間となっており、私個人としては素晴らしい研修の場となっています。しかし、これらの研究成果を知ったり、実践する先生方はほんのわずかなことがとても残念です。校内研修でも感じますが、研修の成果（研修内容の活用）は結局「個人」に委ねられています。研修意欲の高い方は、どんどんアップデートされますが、そうでない方もいるのが現実です。せっかくの研究・研修の成果を活用すれば、県全体の教育がもっとよりよいものになるのに…と日々感じています。</li> </ul>
5	発表終了後の自身の2分間は必要ないと思います。その後の意見交流ですが、誰が参加し、誰が参加しないかわからず、ルームの割り当てが困難でした。しかし、事前に交流の有無を聞くと、参加者が減るのではないかという気もします。参加した方にフォームで感想を送ってもらい、その中から発表者が着目した意見についてコメントを返すようなスタイルもありかと思います。
6	県内の教職員の方々々がZoomで参加することができたことはより広く伝えることができたと思います。あえて言えば、研究発表は発表者と同じ場で聞くからこそ伝わるものもあるかと思います。長きにわたり、ご準備ありがとうございました。
7	Zoomによるオンライン受講が可能ということで、学校にいる先生方も参加しやすかったのではないかと思う。発表後にブレイクアウトルームで意見交換するのもよいが、できれば発表に対する質疑応答の時間を取れば、なおよいのではないかと思った。直接発言しにくければ、チャット機能を活用して、感想や質問を入力してもらおうと、発言の抵抗感も少なくなると思う。
8	ブレイクアウトルーム参加者に心づもりが必要だと感じました。例えば、マイクやカメラが使えるか確認しておく、総教セ職員がファシリテーター役になる、3回とも感想等を話すことを自覚しているなど。入室しない参加者がいたり、マイクもチャットも使えず意思疎通が図れなかったり、所属が長くて名字が表示されなかったりするなどちょっとした困ったことがありました。
9	本日発表された先生、協力校の先生、総教セの先生方の長期にわたる研究、本当にご苦労さまでした。今後も今回のように学校現場の実践に直結する研究をお願いいたします。ありがとうございました。
10	運営おつかれさまでした。3点お願いします。1点目は、（お伝え済みですが、）PCのマイクの故障（？）により、ブレイクアウトルームで発言できない方がおられました。グループ内でチャットが使えたらよかったですと思いました。2点目は、ブレイクアウトルームで協議する際、特定の発表のみ参加の方がおられたため、参加者が2人だけ、というグループもあるなど、グループの人数に偏りが見られました。3点目は、シナリオについてです。ブレイクアウトルームの参加メンバーは3回とも同じだった（と思われる）ため、1回目以外は「皆様の自己紹介がおわりましたら」を削除しておけばよかったですと思います。ちなみに、3回ともメンバーを変えるものありかと思います。自己紹介をできるだけ短くすれば、できなくはないと思います。あらかじめ参加する発表が分かっているので、グループ人数のばらつきもなくなると思います。
11	学校現場に寄り添うという調査研究の方針からして、もう少し学校現場の参加が増えるとよいと思います。開催時期や開催方法を含め、センターの職員で幅広く検討するとよいのではないかと思います。
12	ブレイクアウトルームで、様々な立場の方の意見を聞いたり自分の考えを話したりしたことで、視点が広がり深く考えることができました。発表、運営に携わって下さった皆様、貴重な学びの場をありがとうございました。
13	zoomのブレイクアウトルームで色々な人と話すことができて良かった。
14	所員は対面で発表を聴くことができたことがよかったです。
15	勉強不足の私にとっては場違いの様な大変緻密に練られた研究発表を聞かせて頂いたと感じました。ここまで教材や児童の実態を把握、研究し、実践に繋げていくと、きっと目の前の子供達に力がつくのだろうな、、、と思いながら、できることからやってみようと思う時間となりました。刺激のある時間でした。ありがとうございました。

16	発表形式はそのまま、参集者とZOOM参加者のブレイクアウトルームからの質問や意見等がリアルタイムで紹介されたらいいのでは、と思います。臨場感を高めることで、さらに会場の雰囲気盛り上がりを感じました。
17	オンデマンドよりもオンラインの方が、ブレイクアウトルームという共有の場に参加できる点が魅力なのだと分かりました。
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総教セの所員は382に参集して、発表者を会場で支えたい：リアルなリアクションがあると発表しやすい。</li> <li>・zoomによるオンライン開催は時代の要請でもあり、ブレイクアウトルームの方法もよかったと思う。</li> <li>・企画課の皆様の準備やお気遣いのため、発表者として、とてもやりやすかったです。</li> </ul>
19	実りの多い発表会でした。私も頑張らなくてはどういう気持ちになりました。ありがとうございます。
20	質疑応答の時間が無かったのが残念でしたが、ブレイクアウトルームで同じグループの方と感想等を共有することができてありがたかったです。参加させていただきありがとうございました。
21	どの部の発表もとても考えられており、1年の研究成果がよく伝わりました。また、1年間教育相談部に微力ながら協力させていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。
22	ハイブリッド開催だったが、会場とオンラインが互いのことが全く見えなかったのが、どこかで参加者全体を見渡せる場、交流の場があれば、より発表会としての意義や面白さが高まると感じた。
23	企画部の先生方、毎年毎年このような自身を高めるための運営…発表者をより輝けるための運営、心より感謝しております。ありがとうございましたm(_)_m
24	ズームの意見交換は、大変ドキドキしました。
25	内輪のシェアだけでは、少し物足りないと感じてしまいました。
26	大研修室382で所員が振り返りをしている様子を見ると、完全オンラインやオンデマンド配信よりも一部参集型のほうが主務者の1年間が報われる気がしました。準備運営等は大変かと思いますが、次年度に向けてご検討いただければと思います。